



宗像のエビス信仰

『新修宗像市史』民俗・美術・建築部会から

エビスといえば、七福神の一人として折烏帽子に髻を生やし、満面の笑みを浮かべ、手に竿と鯛を持った姿が頭にうかぶ人が多いと思います。エビス神社といえば、兵庫県西宮、大阪今宮戎神社、島根県美保神社、福岡市東公園の十日恵比須神社をはじめ有名無名の大小様々な神社があります。また「恵比寿・恵比須・夷・蛭子・戎」等の字をあて、日本全国いたるところに祭祀されています。豊漁祈願、五穀豊穣祈願、商売繁盛の神と農漁商の生業や地域によって多様な神として信仰される、今に生きる現代的な民俗神の一つです。

宗像市のエビスは「エベスさん」とよばれ、「恵比須」の字があてられます。鐘崎にある織幡神社下のエビス社をはじめ、鐘崎の西町、北町、中町、千代川といった各区に祭られているエビス、赤間えびす座の商業者の間でおこなわれるもの、神湊、大島、地島にも各々エビスサマがあり、毎年十二月を中心に各々お祭りがおこなわれています。

漁神としてのエビスさま

織幡神社のエベスさんは耳が遠い神様なので、備え付けの棒で賽銭箱のこ

ろを叩いてからお参りするといわれています。また、漁に出る時には必ず頭をさげ、「トウエベス」と船のカヅカ(舵床)を叩き、豊漁祈願をして漁に行くといえます。漁の始めに網入れをする時やアマの人が潜る際にも「トウエベス」とイソガネで船の縁を叩いて潜るといいます。エビスマツリといえば、不漁が続いてマンナオシをするのをさす場合もあります。ありますが、巻網船団では、漁から乗組員が無事に帰ってきて、一杯飲みをすることをさす場合もあります。また、不漁が続くとエビス神のご神体を替えるところもあります。鐘崎の海女が潜水漁を伝えたという下関市蓋井島では、ご神体は海底にある石で、両親が健在な年少の漁師を選び、目隠しをして海に潜り、最初に触れた石を拾いあげて新しいエビス神にします。長崎県壱岐市では海に漂着した水死体を拾いあげ、エビス神に祭祀するといいい、様々なエビスマツリの形があります。

鐘崎のエビス祭り

宗像市のエビスマツリの特徴はオザ(御座)を組んでおこなうところ。鐘崎では「三日エベス」といい、毎年

十二月三日の早朝五時から世話人会が主催し、宗像漁業協同組合鐘崎本所でおこなわれます。座券を購入し、参加しますが、座券を買えば誰でも参加することができます。一回の座が二十五人分、現在では五番座までが用意されます。昔は漁師だけでなく、商売人も参加し、五番座では足りないほど盛況だったといえます。各座では、エビスのお札と笹、刺身、酢鱒、豆ご飯、吸物、御神酒、お土産が配膳され、年毛神社宮司の神事がおこなわれます。終了後、エビス面をかぶった世話人が「大漁安全、海上安全、家内安全」を祈念、打ち込みをし、飲食とゴヒ(金幣)と金の恵比須大黒像を当てる籤引がおこなわれます。当たった人は、来年一年は縁起が良いといわれます。食事が終わると家に帰る人、漁に出かける人もいます。お土産はゴチ、蒲鉾、餅、昆布、豆ご飯といった縁起の良い品々で、家に持ち帰って神棚に供えるといわれています。

赤間のえびす座

須賀神社でおこなわれる赤間のえびす座でも、お祓い、福引がおこなわれますが、鐘崎のような配膳ではなく、「御新酒戴盃」でお神酒をいただき、打ち込みの三度目には手を叩きません。また景品も十種類と多く、恵比須大黒像や「お託宣」とよばれる清酒と掛け軸のセットなど、福を舞い込む縁起の良いもので、漁業地域と商売をおこなう町場によっ

ても違いがあるようです。

(民俗・美術・建築部会 吉留徹)

【注】

1 縁起が悪い、嫌なことが続いたときに良い方向に直すこと。

2 「ヨーツ」シャン、「もひとつ」シャンシャン、一拍おいてシャンの拍手をうつこと。

3 赤間のえびす座については、西南学院大学院吉田扶希子先生のご教示による。

【参考文献】

伊藤彰「鐘崎と海人文化」宮田登編『玄界灘の島々』海と列島文化 第3巻、小学館、一九九〇年

国分直一他「蓋井島村落の歴史的、社会的構造」『農林省水産講習所研究報告』人文科学編 第3号、農林省水産講習所、一九五七年
桜田勝徳「桜田勝徳著作集1 漁村民俗誌」名著出版、一九八〇年

波平恵美子「水死体をエビス神として祀る信仰―その意味と解釈」『民族学研究』42巻 4号、日本民族学会、一九七八年



織幡神社下の恵比須神社